



一般社団法人ディスカバー東広島観光アクションプラン

多様な食文化推進ロードマップ



目 次

1 ロードマップ策定の背景	1
2 データで見る東広島	1
3 多様な食文化に対する東広島市の課題	3
4 今後の方針	5
5 3年間のロードマップ	5
6 運営体制	7

(1) ロードマップ策定の背景

東広島市西条エリアは、日本三大銘醸地の一つに数えられる「酒都」として知られ、酒蔵通りには白壁の蔵や赤レンガの煙突が立ち並び、江戸時代から続く酒造りの文化を体験できる観光地です。日本酒の試飲や蔵見学は欧米豪を中心に人気が高く、英語対応も進んでいます。

また、広島大学周辺にはイスラム圏をはじめ多くの外国人留学生とその家族が暮らしており、VFR（親族・友人訪問）による観光客も増加傾向にあります。特にインドネシア等からの留学生は国策として推進されており、今後さらなる増加が見込まれています。

このように、東広島市は歴史的・文化的魅力と多様な居住者を兼ね備えた地域であり、**国内外からの観光客の受入や地域全体の魅力向上に向けた取り組みを進める基盤**があります。こうした状況を踏まえ、地域内での飲食や宿泊の促進、多文化に対応した受入環境の整備、情報発信や広域連携の強化などを体系的に進めるため、3年間のロードマップ策定に取り組むこととしました。これにより、**“多文化共生のまち”の実現と観光地経営の推進**を目指します。

(2) データで見る東広島

本節では、「外国人市民を対象としたアンケート調査」と通年実施する「外国人観光客を対象としたアンケート調査」の結果をもとに、東広島市における多様な食文化対応の現状と課題を考察します。

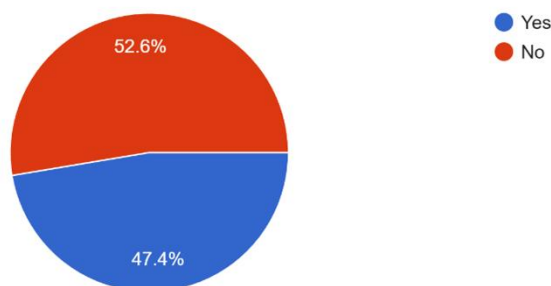
○外国人市民を対象にした調査（2024 年） 概要

回答者数	38 名
回答者国籍	16 カ国（中国、ベトナム、インド、ウズベキスタン、フィリピン、インドネシア、イラン、マダガスカル、シリア、コロンビア、キルギス、メキシコ、マレーシア、パキスタン、タジキスタン、バングラデシュ）

■2024 年、あなたに会いにご家族や親戚、友人が日本に来られましたか？

In 2024, did your family, relatives or friends come to Japan to see you?

38 件の回答



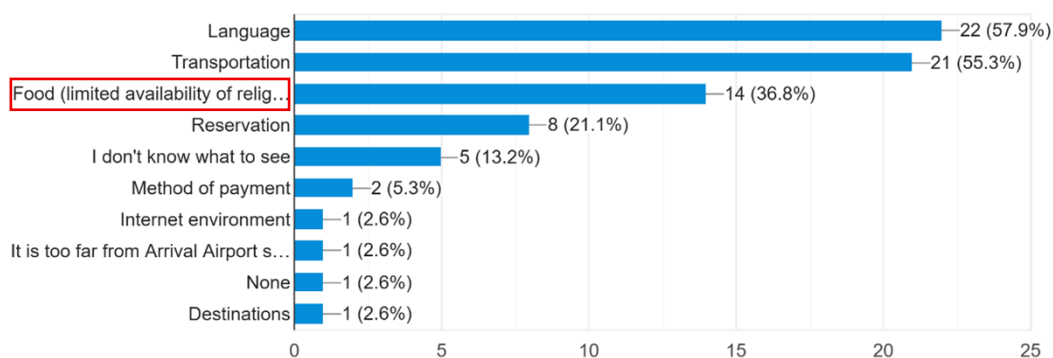
・前年の 52.8%からは微減したものの来訪率は 47.4%に達し、依然として外国人市民の約 2 人に 1 人が家族や友人を日本に迎えていることが伺える。

・日本在住期間とのクロス集計から 1 年以上 3 年未満の層で、家族を呼び寄せる傾向が顕著に見られる(来訪があった回答者のうち、1 年以上 3 年未満の滞在割合は 38.9%)。

■ご家族等と東広島を観光する(した)際の懸念事項は？(複数選択可)

What concerns do you have about sightseeing in Higashi-Hiroshima city with your family? (multiple selection possible)

38 件の回答



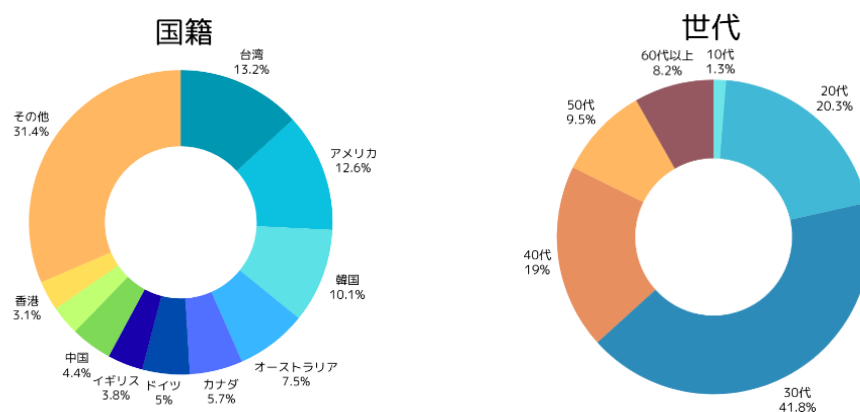
・「言語」が 57.9%と最も高く、次いで「移動手段」が 55.3%と続く中、「食事(宗教的な制限や習慣等)」が 3 番目に高い 36.8%となっている。

・2023 年調査時の設問「東広島のあなたのおススメの飲食店は？(複数回答可)」では、懸念事項「食事(宗教的な制限や習慣等)」を選択した人の多くが寿司(全国チェーン)やインドカレー店のみの回答となった。

○外国人観光客を対象にした調査（2025 年） 概要

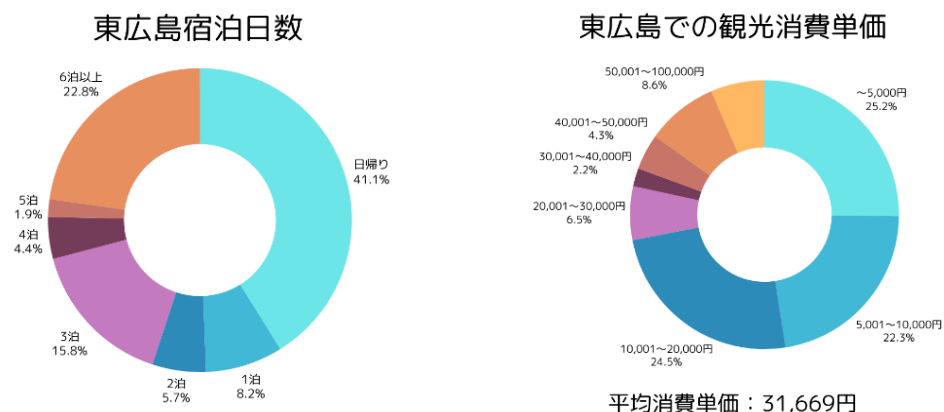
言語	英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語
拠点	宿泊施設(3 か所)、観光案内所(2 か所)、酒蔵(1 か所)、その他 酒蔵通りを散策する観光客への調査員からの回答依頼

■属性と世代



- ・アンケート回答者国籍別では、最も多いのは台湾、次いでアメリカとなっている。
台湾では人口の10～15%がヴィーガンまたはベジタリアンで、世界的にも高い割合となっている。アメリカは人口比率では約5%だが、母数が大きいため、実人数としては多くのヴィーガン・ベジタリアンが含まれている。
- ・20～40代の割合が高く、合計で81.0%とボリュームゾーンとなる。

■宿泊日数・観光消費額



- ・4割以上が日帰り観光客となり、観光消費額も5,000円未満の割合が最も高く、0～2万円が全体の71.9%となる。日本酒が特産品でありながらも、東広島市内で夕食を楽しむ、宿泊する観光客は少ないことが伺える。

(3) 多様な食文化に対する東広島市の課題

背景やデータを踏まえて多様な食文化に対する東広島市の課題。

西条エリアを中心としたヴィーガン・ベジタリアンに対する課題	
<p>東広島市を訪れる外国人観光客の中では、台湾や欧米からの来訪者が多く、その中にはヴィーガンやベジタリアンの旅行者も一定数含まれます。</p> <p>特に来訪者が集中する酒蔵通りでは、蔵見学や土産の購入にとどまり、地域の飲食店を利用する観光客が少ない傾向にあります。これは、ヴィーガンやベジタリアンなど、特定の食文化に対応した飲食店が少なく、食事の選択肢が限られていることが一因と考えられます。</p> <p>その結果、地域内での飲食や宿泊への波及が十分でなく、他地域へ移動して食事を取るケースも見られ、日帰り観光の増加や観光消費額の低下につながっている可能性があります。</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・酒蔵通りを訪れる台湾や欧米系観光客の中にはヴィーガン・ベジタリアンが含まれるが、地域の飲食店利用は限定的。 ・ヴィーガン・ベジタリアン対応メニューや飲食店が少なく、食事の選択肢が限られている。 ・飲食店や宿泊施設の観光消費が低下し、地域への経済波及効果が十分に得られていない。 ・情報発信の強化、西条エリア中心の取り組みを市内全域に広げる必要がある。

市内に在住する留学生や VFR を中心としたハラールに対する課題	
<p>東広島市には広島大学周辺を中心にイスラム圏出身の留学生やその家族が多く暮らしており、近年では、家族や友人を訪ねて来日する「VFR（親族・友人訪問）」目的の来訪も増加傾向にあります。</p> <p>こうした中で、家族や友人の来訪時に東広島市内を観光する外国人住民も増えていますが、調査結果からは、観光時の懸念事項として「食事（宗教的な制限や習慣）」を挙げる声が一定数ありました。実際に推奨される飲食店としては、全国チェーンの寿司店やインドカレー店が多く、地域の個人店や地元料理を提供する店舗ではハラール対応が十分に進んでいない現状が見られます。</p> <p>その結果、市内で外食をする機会が限られ、地元店舗での飲食や地域内での観光消費の拡大につながりにくいという課題が生じています。</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・市内でハラール対応可能な飲食店が少なく、飲食しやすい環境が整っていない。 ・飲食店の理解・対応が十分でなく、VFR 観光時の食事への懸念がある。 ・市内での外食利用が限定的で、地域内での観光消費拡大や広域連携につながりにくい。

(4) 今後の方針

現状と課題を踏まえ、今後は対応店舗の拡大と地域全体への波及を目指し、以下の3つの方針のもと段階的に事業を推進します。

方針① 受入環境の整備・拡充

飲食店が多様な食文化や宗教的背景に対応できる環境を整え、受入体制の質と量の両面で充実を図る。

方針② 情報発信・認知向上

外国人観光客や在住する市民への情報発信を強化し、取組全体の認知度向上と利用促進を目指す。

方針③ 持続化体制・広域連携

西条エリアでの取組を基盤に、持続的な受入体制を整備する。また、広域団体や県等とのノウハウ共有や広報を強化し、広域的な連携体制の構築を図る。

(5) 3年間のロードマップ

本ロードマップは、上位計画である「一般社団法人ディスカバー東広島 観光アクションプラン」（令和6～10年度）に基づき、令和8～10年度の3年間における具体的な取組の方向性を整理したものです。多文化対応の飲食環境整備、情報発信、広域連携を柱として、“多文化共生のまち”の実現と観光地経営の推進を目指します。

◇令和8年度：基盤定着・見える化フェーズ

目的	これまでの取り組み成果を整理・共有し、対応店舗の拡大や地域全体の波及を促す。また、情報発信や広域連携の基盤を整備し、持続的な多文化食文化対応の体制づくりを目指す。
受入環境の整備・拡充	<ul style="list-style-type: none">・ KPI（対応店舗数・英語サイトアクセス数等）の整理と進捗の可視化・ 利用者アンケート（満足度・推奨度等）の実施・ 導入支援ツールの制作：多言語メニュー作成テンプレート、食材の宗教・文化対応ガイドなど・ 新規参加店舗への個別フォローアップ支援
情報発信・認知向上	<ul style="list-style-type: none">・ 店舗情報の発信支援：Google マップ掲載支援・ DMO 英語サイトや英語グルメマップでの情報発信
持続化体制・広域連携	<ul style="list-style-type: none">・ 西条エリアを中心に基盤づくりと成功モデルの確立・ 広域団体や県、周辺市町との情報・ノウハウ共有

◇令和 9 年度：展開・発信強化フェーズ

目的	整備した基盤を活用し、外国人観光客・外国人市民への認知を拡大するとともに、対応店舗の利用促進や地域の機運醸成を図る。
受入環境の整備・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ KPI 拡大と継続的な進捗確認（対応店舗・利用者アンケートによる評価） ・ 新規参加店舗への個別フォローアップ支援
情報発信・認知向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人市民向けモニターツアーの実施による受入環境の検証と改善 ・ SNS やキャンペーン企画による情報発信の強化 ・ 専用アプリでの店舗情報発信
持続化体制・広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果・課題の共有会の実施による広域的ノウハウ蓄積

◇令和 10 年度：定着・持続化フェーズ

目的	多文化食文化対応体制の定着と広域的なプロモーションの実施により、持続可能な観光振興を推進する。
受入環境の整備・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ KPI 定着と成果検証、次期計画への引継ぎ ・ 新規参加店舗への個別フォローアップ支援 ・ 成果事例集の取りまとめ
情報発信・認知向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語グルメマップの刷新・配布拡大 ・ 英語サイトや SNS での情報発信の強化
持続化体制・広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ DMO 支援に依存しない自発的な対応店舗の拡大 ・ 店舗間の連携・情報共有による取組の定着 ・ 広域プロモーションの共同実施

(6) 運営体制

上記で定めたロードマップに沿って、本事業は自治体や関連団体、地域の飲食店・事業者の皆様と連携しながら推進します。各主体と協働することで、受入環境の整備・拡充、情報発信の強化、エリア展開・広域連携の三つの方針を実現し、東広島市全体で多様な食文化に対応した観光・受入体制の充実を目指します。

